

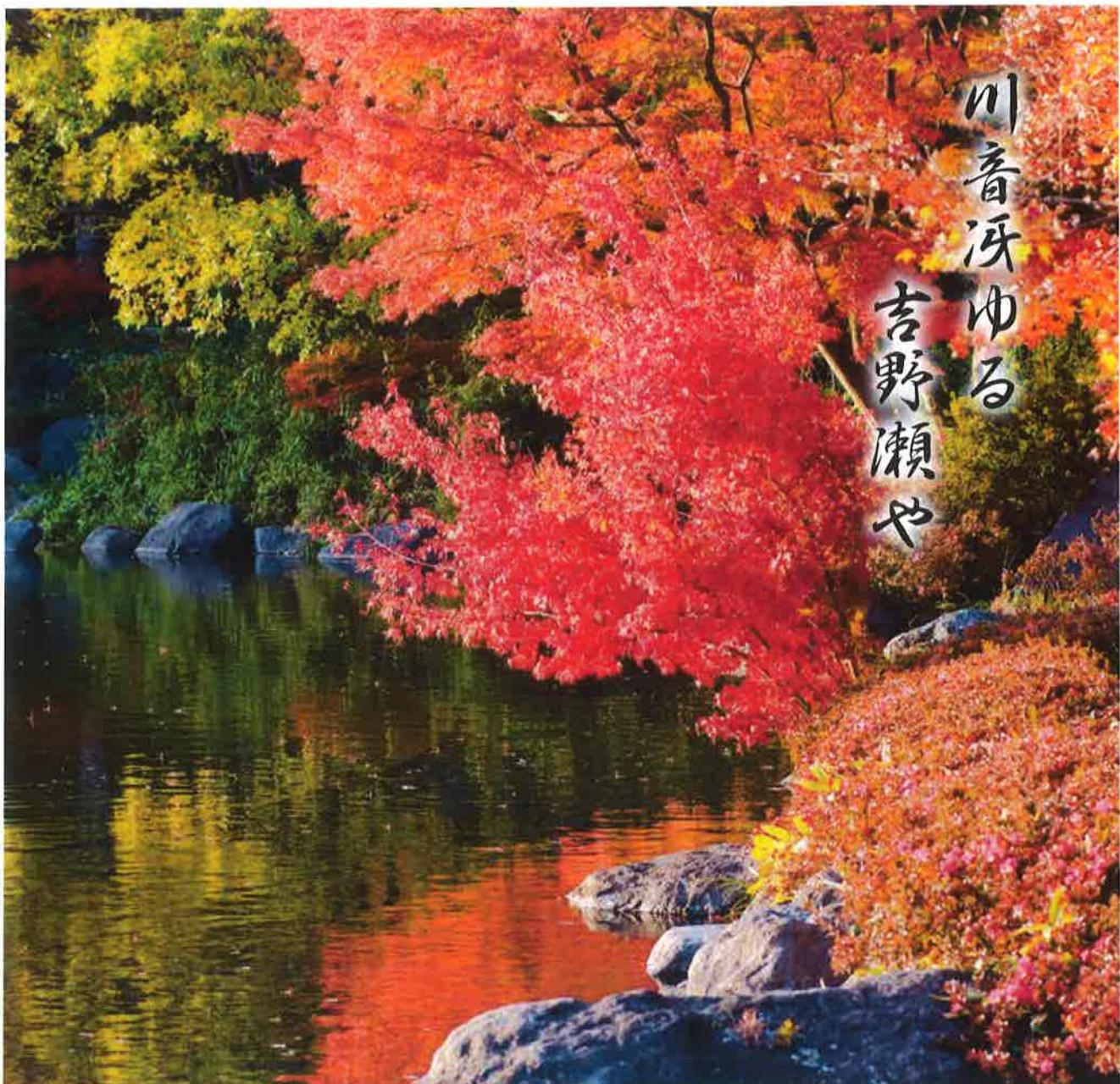


福井高専

青武台だより

平成30年
12月25日発行
NO.217

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
National Institute of Technology, Fukui College



CONTENTS

- | | |
|-------------|-------------|
| P2 ▶はじめに | P11 ▶活躍する仲間 |
| P6 ▶第54回体育祭 | P15 ▶学校通信 |
| P9 ▶第54回高専祭 | P19 ▶中学校だより |

Special Interview

～はじめに～



海の外へ

国際交流室長 吉田 雅穂

海に囲まれた日本は外国を海外、海の外と呼びます。アメリカやユーラシアの大陸のように隣国が陸続きであることと比べると、日本人が国外に行くことは、手段はもちろん、気持ち的にもハードルは高いですね。また、日本語という外国では一切使われない言語を話すことも障壁となっています。しかし、ハードルが高い故に、発展した先進国や途上国の未知の世界を見てみたいという願望が昔の人にはありました。しかし現代では、インターネットというインフラとGoogle Earthのお陰で仮想世界旅行を瞬時に楽しむことができてしまいます。飛行機を降りて入国審査を終え、ターミナルビルを出た時に、今まで経験したことのない、その国の色、音、温度、湿度、においに遭遇します。そこから街へ出ると、さらに、経験したことのない、景色、言葉、習慣、味に出会います。そしてその時、自分が日本から来た人間であることを強く意識するようになります。

私が初めて海外を旅したのは就職して間もない22歳の時。いわゆる旗を持ったガイドさんに付いていく旅でした。残念ながら記憶がありません。その2年後、インターネットのない時代、飛行機や宿を電話で予約し、地球の歩き方を片手に公共交通機関で移動するアメリカ1人旅をしました。街の風景や落書きだらけの地下鉄での恐怖は今も鮮明です。記憶は自らの自発的な行動によって脳に深く記録されます。

少子高齢化で人口が減少し、資源を海外に頼る日本。

持続的で希望に満ち溢れた未来を築くために、君たちエンジニアはこれから何をすべきなのでしょうか。新たな技術を生み出し、それを他国に売り込むことがそのひとつかも知れません。その実現には、その国が何を必要としているのか、その国人の人や風土がどうなのかをビッグデータの収集とともに本物を五感で知ることが重要です。さらにその実行には、世界共通語である「英語力」の修得はもちろんのこと、それを使う「会話力」、それをさらに分かりやすくする「表現力」、異国で生活する「人間力」を身に付ける必要があります。

さて、将来のグローバルエンジニアとして期待されている君たちのために、福井高専では以下に示す海外派遣や受入の事業を行っていますので、是非、積極的に活用してください。そして、一人でも多くの福井高専生が海の外へ飛び立つことを願っています。

【オーストラリア研修旅行】本校主催でオーストラリアのメルボルン近郊での英語研修、ホームステイ、学生交流を隔年で行っています。2016年度は31名の本科学生が11日間の研修に参加しました。今年度は来年3月中旬に実施します。

【海外インターンシップ】本校や高専機構が斡旋する海外の企業や大学において2~4週間の研修を行います。2017年度は本科4年生1名、5年生1名と専攻科1年生2名、今年度は専攻科1年生2名が参加しました。過去3年間の渡航国はマレーシア、フィリピン、台湾、ドイツ、シンガポールです。

【トビタテ!留学JAPAN】文部科学省が主導する留学推進事業であり、高専1~3年生対象の高校生コース、高専4年生~専攻科生対象の大学生等コース、高専生に特化

Special Interview

～はじめに～

した未来テクノロジ一人材枠、そして、福井県独自の地域人材コースがあります。渡航国や留学期間は自分で自由に決めることができ、書類審査と面接により旅費や生活費、授業料が支給されます。本校では2017年度に本科3年生1名と専攻科1年生1名が支援を受け、アメリカとドイツに飛び立ちました。

一方、様々な理由で海外に飛び立てない学生さんは、本校が受け入れる短期留学生との交流の機会があります。今年度はタイのプリンスオブソンクラー大学とキン

グモンクト工科大学より計5名の学生が1~2ヶ月間在学し、学寮で生活しながら、機械工学科、電子情報工学科、環境都市工学科の学生と一緒に勉学と研究に励みました。この様な機会を利用して外国の文化を間接的に知ることができます。なお、渡航費等については日本学生支援機構JASSOや福井県、福井高専による経済的な支援制度がありますので、詳しくは国際交流室までお問い合わせください。

**目標にむかって**

教育後援会会長 松田 耕明

今年度、教育後援会の会長を務めることになりました松田と申します。

会員の皆様また、福井高専の教職員の皆様におかれましては、日頃から教育後援会の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、高専に入学された方は、将来技術者として活躍したいと思う方が大半でしょう。5年間という学校生活の中で、自分の将来の目標を定め、専門知識を習得し、社会に貢献できる技術者を目指していくために努力と熱意をもって勉強していくなら、すばらしい成果が得られることはまちがいないと思います。学校で学んだことを畑として、種をまき、水や肥料をご自分の学習のなかであたえてやることで大きな花を咲かせていくと思っています。そのために高専にいる今を大切にして学生生活をすごし

てほしいと思います。

1年生から2年生、3年生と学年があがるたびに勉強も難しくなっていきます。わからないからやらないではなく、もがいて苦しんで考えていくことが必要です。教職員の方々も誠実にそれを受け止め、皆様の力になってくれるはずです。中には今勉強していることが一体なにななるのか、はたして自分に必要なことなのだろうかと思われる方もおられるかもしれません。どうかあきらめずにチャレンジして下さい。一生懸命努力することで道はひらけると思います。そして、自分の目標につきすすんでください。明るい豊かな未来はあなたがたの手によって作り出していくのです。あらん限りの力をふりしぶってチャレンジしていくこそ大切なことだと思います。

最後になりますが、私の息子も5年間高専生活をおくさせていただきました。すばらしい成長を遂げたと思います。保護者の方々が同じような思いをとげられますよう学生生活を過ごして下さい。そして夢を成し遂げられるようがんばってください。

Special Interview

MAXを超える

1年担任 門屋 飛央

『論語』巻第三、雍也第六に、以下のような一節があります。「冉求が曰わく、子の道を説(よろこ)ばざるには非ず、力足らざればなり。子の曰(のたま)わく、力足らざる者は中道にして廃す。今、女(なんじ)は画(かぎ)れり。」孔子の学問の素晴らしさはわかっていても、自分の力不足で理解できないと言う弟子に向かって、孔子は「今お前は自分で自分を見限っている」と励まします。

入学してから半年が過ぎました。学校生活を送るなかで、「自分には無理」「これが限界」と決めつけていることはありませんか?また、「とりあえず周りと同じことをしていればいい」「皆ができないから、自分もできなくていい」と甘えてしまっていることはありませんか?そうやって自分に見切りをつけていると、成長にはつながりません。

皆さん、可能性に溢れています。どこで才能を開花させるか、何が人生を切り開くかは、まだわかりません。まだきちんととした目標がなくたっていいんです。掴むべきチャンスが来たときに、それを掴み取るために、成長するのを止めないでほしいと思います。

そのための福井高専という仲間がいて、クラスというホームがあります。後期も頑張りましょう。

スマホは使え、使われるんじゃない。

2年担任 長谷川 智晴

2年生の担任になって半年ほどたちました。入学時に比べみなさん多少大人になったかなと思います。そんな今、強く感じるのは、とにかくみんなの勉強量が足りないということです。よく勉強して結果を残している学生もいますが、ほとんどの学生は勉強していない。そのかわり、一日中スマホをいじっています。

ためしにスマホをいじっている時間を計算してください。

～はじめに～

一日何時間ですか。ひと月だと何時間になりますか。一年だと何日分になりますか。たぶん恐ろしいぐらいの時間を浪費しているはずです。それだけ時間を無駄にしているのです。勉強せずに。

私もみなさんの年のころは、よくゲームをしていました。だからゲーム自体を否定したりはしません。でも、今のみなさんほど長時間遊んでいたわけではありません。だから心配でなりません。

スマホは使いこなすことができればとても便利です。でも、ほとんどの学生はスマホの奴隸になって、暗い部屋でゴソゴソとゲームに夢中になっている。これってスマホに使われているんですよね。

高専生なのだから、理系なのだから、技術屋なのだからスマホを使いこなすようになってください。スマホに使われなければ、自然と勉強時間も確保できるはずです。ゲームで無駄に使った時間は二度と戻ってこないので。

これからを見据えて

3年担任 佐々 和洋

3年生の皆さん、高専生活も半ばを過ぎ日々の学習や生活にすっかり慣れが出てきてしまっている人もいると思います。そこで、今一度考えて貰いたいことは、皆さんの高専生以外の同級生は現在どのような状況下で日々の生活をしているかと言うことです。きっと多くの友人たちは大学受験や就職活動を中心とした重要な一日一日を過ごしているまたは過ごし終えた状態です。

皆さんは「高専卒業まで、まだ2年以上あるから」と油断しているかもしれません、友人たちが経てきた厳しい道は思いのほか間近に迫っています。3年生の3月には就職活動の始まりである“合同企業説明会”があり、4年生に入ればすぐに“インターンシップ”について決めなければならなくなります。このインターンシップ先にそのまま就職する学生も多いことから、就職を希望する学生にとって意義深いものであることは言うまでもありません。また、

Special Interview

～はじめに～

進学を目指す人も、3年生の冬休みに入れば“受験まで1年半”の月日があるか無いかという状況です。是非にもより高い志望校を目指して、勉学に取り組んで欲しいところです。これから1年から1年半は、皆さんにとって大きな岐路となります。今後の将来を見据えて毎日を大切に過ごしてもらいたいです。

卒業後の進路に向けて

4年担任 丸山 晃生

あっという間に半年が過ぎ、4年生にとっては高専生生活が残り1年半弱となりました。本年度は、体育祭を9月下旬に実施することになり、4年生は大忙しの夏になりました。この行事も含め、高専には人間的に成長できる機会がいくつもあります。特に高専4年では、就業体験の校外実習(インターンシップ)を通して、また体育祭で中心的役割を担い、成長できることでしょう。

4年生の後半は、卒業後の進路に向けて、しっかりと準備を進める時期となります。過去を顧み、将来を夢見て、現在すべきことを実行しましょう。まずは、これまで3年半の高専生活を振り返り、整理してみてください。座学・実験・実習、資格取得、部活動、学生会活動、クラス役員、寮生活、ボランティア、地域のサークル活動、趣味等々、自分が些細なことだと思う経験でも良いです。そして、卒業後の進路をイメージして、そのイメージに近づくための準備をしましょう。過去の実績から、採用試験や進学の受験の時期、その応募書類の書式・内容、準備しておくべきことは概ね分かれます。

半年後には、卒業後の進路に向けた動きの中にいます。その時に、また卒業するときに、笑顔になれるように、今後の高専生活で益々人間力を向上させてください。

学級担任から

5年担任 高山 勝己

早いもので担任の任期も残すところあと半年となった。つい先日、進学を目指してがんばっていた学生の合格が決まり、全員の進路が確定した。この数か月間、一人一人の顔を思い浮かべながら推薦状・調査書を作成し、学生を試験会場に送り出し、合否結果に一喜一憂しつつ、パソコンの進路状況一覧表に結果を記録していく毎日だった。学科の会議で合格者の報告をするのが楽しみであった。進路指導は実際に忙しく振り回されるのだけれども、何度もやってやりがいのある仕事である。

さて私が担任するのは、今回で4度目であるが、学生が選択する道はなんとも多様であり、予測がつかないものだといつも思われる。今回も担任の判断と学生の希望の不一致が多々あった。各々自らが決断した道なのだから、後悔せず未永くがんばってもらいたいと思う。一方で、自分の第一希望が叶えられなかった学生もいる。そんな学生にも私は言いたい。あなたの才能は、あなたが合格した大学で採用された企業で活かされるためにあるのだと。だから、喜び感謝して今日から入学、入社に備えてほしい。かけがえのないあなたの未来のために。卒業までもうしばらく担任としてできる限りの事をしたい。



Special Interview

～第54回体育祭～

第54回 体育祭

学生主事補 相場 大佑

9月28日(金)に、第54回体育祭が開催されました。例年は、4月下旬に開催されていた体育祭ですが、今年度からは9月に開催されることになりました。9月とはいっても、昔と比較すると、夏の猛暑がまだ続いており、なおかつ台風も多く発生する時期なので、天候に大きく左右される難しい時期です。当日は、幸いにも天候に恵まれ(暑いくらいでしたが…)、競技・デコレ・応援にたくさんの学生が参加し、各組ごとに競い合いました。今年度の競技は、しつぽ取り・クラス対抗リレー・背中渡り・大旗リレー・騎馬戦・デカパンリレー・綱引き・色別対抗リレーの8種目が行われ、さらに、これらの競技の間にエール交換・デコレ・応援が行われ、大きな怪我をすることもなく、無事に体育祭を終えることができました。

さて、9月に開催されることになった体育祭ですが、初めてということもあります。学生は、準備する側も競技する側も、非常に大変であったと思います。単に、開催時期が動いただけと見ることもできますが、実際には、準備期間等も含めると膨大な時間と労力を要しています。例年の準備スケジュール等も、開催時期の変更に伴い、改めて考え直さなければいけないため、体育長の坂口君を中心として、多くの学生会メンバーが頑張っていたと思います。また、各組の団長は、限られた時間と条件の中でよくここまで仕上げ、そして頑張ってくれたと私は考えています。来年度以降も改善を続け、より良い体育祭になることを願っています。

最後になりますが、お越し頂いた保護者の皆様、ご協力頂いた教職員の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。



体育祭を終えて

3C 坂口 元弥

今年の体育祭は、一週間前の天気予報では当日は雨予報で、本当に行うことが出来るのかと心配になりました。しかし、当日はそれまでの天気の悪さを忘れさせるような素晴らしい秋晴れの中、体育祭を開催することが出来ました。

各色が6月から少しづつ練習してきたエール、応援、デコレ紹介があり、皆さんのがんばりを発表してきました。見ることが出来ました。

応援団の方達は、息を揃えた素晴らしい応援を、デコレの方達は時間をかけて制作した旗を発表していく、とても感動しました。

競技でも、白熱したりレーや騎馬戦、綱引きなど体育祭がとても盛り上がったと思います。

今年は4月から9月に日程が変更されて初めての体育祭で変更点など多く不安がありました。しかし、体育祭実行委員、体育祭委員、部活動補助員の皆様、先生方、また多くの体育祭関係者の皆様のおかげにより、体育祭を無事終えることが出来ました。ありがとうございました。

来年の体育祭も、今年以上に盛り上がるよう皆様のご協力をよろしくお願いします。



～第54回体育祭～

4M



4E



4EI



4C



4B



Special Interview

体育祭に参加して

3EI 樋口 裕亮

今年、僕は緑組応援団として体育祭に参加しました。今年は例年とは異なり、九月末の体育祭となりました。応援練習も夏休み中から始まり、なかなか人が集まらず応援が完成するか不安を抱きながらの練習でしたが、みんなで振り付けを教え合いながら、できるだけよりよいものを作ろうと努力してきました。

そして、みんなが楽しむことを自指して、体育祭が始まりました。競技では、ときには他の色と本気で競い合ったり、クラスや色ごとで協力しており、全員が楽しんでいる姿を見ることが出来ました。また、テント内でも競技の応援で盛り上がっており、緑組全体の一体感を感じることが出来ました。

午後一番初めの応援合戦、今までの練習の成果を出せるように一人ひとりが本気で取り組みました。練習では最後までなかなかそろわなかった動きも、きれいに揃い、全員の動きの一つ一つが整っていました。団長、副団長の動きもきれがあり、今まで一番きれいな動きが本番で出せていました。応援が終わった後は、すべてを出し切ったい顔を全員がしていました。「応援かっこよかったよ」という感想を聞いて改めてすばらしい応援にできたのだなと感じることが出来ました。

緑組の応援の順位は三位でしたが、この結果にみんなが満足していました。そして、楽しく応援が出来たところについては、緑組が一位だと僕は思います。応援の時間はたった五分と短でしたが、とても思い出に残るものとなりました。ここまで体育祭・応援を作り上げた四年生のみなさん、応援団の全員に感謝。

～第54回体育祭～

第54回体育祭成績一覧



《部門順位》

種目	順位	1位	2位	3位	4位	5位
デコレ	赤	緑	黄	白	青	
応援	赤	黄	緑	白	青	
競議	赤	黄	白	青	緑	
総合	赤	黄	白	緑	青	

《クラス順位》

学年別 総合成績	順位	1位	2位	3位	4位	5位
	1年	黄	白	緑	赤	青
2年	青	白	黄	緑	赤	
3年	赤	黄	緑	白	青	
4年	白	黄	赤	青	緑	
5年	赤	黄	白	緑	青	



Special Interview

～第54回高専祭～

高専祭について

学生主事補 松野 敏英

高専祭は高専祭実行委員である学生が企画および運営を行う。この学生の主体的な活動によって、高専祭は成り立っている。もちろん、実行委員でない学生および教職員の協力は欠かせない。

高専祭は毎年10月に開催している。この準備は7月から始まる。私が知らないだけで、実はもっと早くから学生は水面下で準備に取り掛かっているのかもしれない。実行委員は、電源部門長や露店部門長のような、それぞれに役割りが任せられている。これらの部門長はその部門に属する学生と共に準備と運営に取り組む。

高専祭の当日は、これまでに準備をしていても、細かな事柄がいくつか発生した。たとえば、急な雨が降ってきたたり、椅子や机が見当たらなかったり、ゴミの分別が不十分であったり、他にもあった。おそらくこれらの発生を完全に防ぐことは不可能であろう。現場では、部門長を中心に学生達が実際に柔軟に対応する姿が見られた。この意味は“手を抜いた対応”ではない。走り回って、声をからして、自分から動いて、“出来る限りの精一杯の対応”であった。すべての実行委員の学生は十分にその責任を果たしてくれた。ありがとう。

第54回高専祭を実施して

高専祭実行委員長 4C 前田 浩嗣

第54回高専祭実行委員長を務めました、4C前田浩嗣です。今年の高専祭は5月頃から実行委員で準備をしてきました。今年の高専祭のテーマは「Color +」でした。学生全員が自分の色を出して、高専祭という大きな絵を描こうというものでした。皆さん今年の高専祭はどうでしたか？皆さんの思い出に残る高専祭だったのならば、私たち実行委員は高専祭を開催して大きな意味があったと思います。

高専祭の企画では学生や先生方の普段は見れないような一面を見られたと思います。さらには、部活動や同好会、学生たちのバンドなど、この高専祭で今までの活動の成果を発揮できたと思います。学生1人ひとりがその場を盛り上げてくれたため企画1つひとつが大いに盛り上がったと思います。さらに今回は、一般の方たちに向けて私たちの授業を体験してもらう企画を行い、たくさんの方たちに参加していただきました。また、今年の高専祭は、後片付け等もスムーズに行えました。これも学生や先生方の協力があったためだと思います。このように今年の高専祭は何事も問題なく終了できたと思います。

最後になりますが、高専祭に協賛してくださった企業の方々、協力してくれた先生方、参加してくれた学生たちにはこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

来年の高専祭にもご期待ください。



～第54回高専祭～



Special Interview**～活躍する仲間～****平成30年度 教育後援会研究奨励一覧**

学年・学科	申請者	研究題目	指導教員	交付金額(円)
4B	片岡 元春	全国高専デザインコンペティション 銅を用いた「アーチ橋」の製作	吉田 雅穂	94,000
5B	島脇 優里	全国高専デザインコンペティション 設計コンペに挑戦 デザコン2018(空間デザイン部門)、建築新人戦、建築甲子園など	野々村善民	58,000
5M	松田 英孝	全国高専デザインコンペティション(AMデザイン部門) 3Dプリンタを用いたスポーツ支援アイテムの開発	安丸 尚樹	145,000
4B	大原 裕也	全国高専デザインコンペティション 銅線を用いた「単純支持橋」の製作	樋口 直也	94,000
4C	福田 奈月	福井県およびその周辺における地殻活動の研究	岡本 拓夫	14,000
4M	真柄 尚弥	全国高専ロボットコンテスト 高専ロボコン出場ロボット「めいどいんふくい」の開発	千徳 英介	145,000
3M	木谷 太一	全国高専ロボットコンテスト 高専ロボコン出場ロボット「shoot cake」の開発	亀山建太郎	145,000
5B	高橋 未紗	建築新人戦2018、全国高専デザインコンペティション等 都市洪水の予測技術と3D-CADを用いた都市計画に関する研究	野々村善民	39,000
5E	納谷らいむ	次世代パワーデバイスを用いたモーター駆動の実体験	秋山 肇	74,000
4E	石黒 薫子	高専生による防災を通じた地域交流プロジェクト	江本 晃美	24,000
4M	田端 大渡	飛び出せ!!Can Sat!!	西城 理志	67,000
合計 899,000				

平成29年度 教育後援会研究概要報告**初めてのデザコン**

4B 岩崎 拓

私たちは、2017年12月2日～3日にかけて全国高等専門学校デザインコンペティション2017 in 清流の国ぎふの構造デザイン部門に参加しました。これまでの大会とは製作条件が大きく異なり、高低差のある支点、砲丸による移動荷重、2か所の載荷点などの条件を満たすメタル製のブリッジを製作しました。

私が所属していたチームは全員が初めての参加で、はじめは何をすればよいかわかりませんでした。夏休み中も活動し、自分も案を出して45kgの載荷と移動荷重に耐える橋

を作ることができました。

大会では、他の高専の作品も見ることができました。様々な形状の作品があり、多くのことを学びました。また、見た目の美しさや製作が丁寧なものは特に際立って見えました。私たちの作品は本番では壊れてしましましたが、半分にも満たない質量で載荷に耐える橋もあり、力の差を感じました。

昨年度の活動で担当の先生方には大変お世話になりました。また、載荷治具の製作では、機械工学科の方にも協力していただきました。多くの方々の協力の下で私たちは活動できているということを常に忘れないようにしたいと思います。

Special Interview

～活躍する仲間～

デザコンに参加して

5B 島脇 優里

昨年、私はデザインコンペティション（デザコン）に作品を提出しました。デザコンは、空間デザイン部門と創造デザイン部門、AMデザイン部門とプレデザコンの四部門あります。私が参加したのは空間デザイン部門です。この部門は、ポスターを提出し、一次予選を通過した作品の発表を行います。福井高専は、今までこの部門での一次通過者はいません。

昨年、私は建築コンペの出品数を増やすために、空間デザイン研究会を設立しました。その結果、一昨年の空間デザコン部門の出品数は三作品でしたが、昨年は七作品になりました。私の作品は、一昨年の作品をバージョンアップさせたものでした。夏休みに毎日学校に通って作品を仕上げました。しかし惜しくも、空間デザコン部門の一次通過はできませんでした。

昨年の失敗を活かして、今年も参加しました。今年は、画像編集ソフトを使用し、さらにパワーアップした作品を提出できました。今年私は五年生になりました。今年のデザコンが最後です。今年こそは一次予選を通過したいです。

3Dプリンターを用いた高齢者用スマホスピーカーの開発

機械工学科卒業生 塚田 純太

岐阜県のじゅうろくプラザで開催された、第14回全国高専デザコンに応募しました。中でも私が応募したAMデザイン部門では、安心・安全をコンセプトとした3Dプリンターを用いたアイテム開発が課題でした。

昨年の先輩チームは、音楽の力で高齢者と子供が触れ合うことで認知症の予防ができ、緊急時はレスキュー音が出せる笛を開発しました。今年は、音に関する経験を活かし、別居家族と高齢者がスマホを用いたTV電話でのコミュニケーションをとることを目的としたスマホスピーカーの開発に取り組みました。完成したスマホスピーカーは音の拡大率が13倍となり、さらに低音重視の落ち着いた音

が出せるものになりました。また、サイズをコンパクトにし、スマホの画面を拡大するためのフレネルレンズの設置、薬などを収納する引き出しの設置を行うことで、より高齢者の方が使いやすいように開発を行いました。

デザコン本選に出場することはできませんでしたが、本校で開催されたJOINTフォーラムに参加させて頂きました。そこで、自分の作品についてしっかり伝えることができ、企業の方や先生方に自分の作品を評価して頂き、貴重な経験ができました。この経験から、一からものを作り上げる楽しさや、大変さを学ぶことが出来ました。最後になりましたが、ご支援くださった皆様、本当にありがとうございました。

デザコンに初めて参加して

4B 内藤 祐大

2017年12月2日、3日に行われた全国高等専門学校デザインコンペティション2017に参加しました。

メインテーマは「デザインが天下を制する」で、今回私が参加した構造デザイン部門では大砲に見立てた橋に重りを加えながら5kgの砲丸を転がしていく、砲丸を含めて50kgの重さに耐えられるか、デザイン性に富んでいるかを競うものでした。砲丸を転がすという課題は今回が初めてだったらしく、どのような構造が有利なのか試行錯誤を繰り返し、解析によって無駄な部材を省いた「米」という橋が本選に登場しました。

本番当日に会場に行くと、三角形の橋や、例年優勝しているアーチ構造の橋、柔らかく変形する橋など、それぞれの高専のアイディアが詰まった作品がありました。福井高専の橋の構造はトラス構造でしたが、自分たちが思いつかなかったような橋がある会場は新鮮で他校の作品に見入ってしまいました。

しかし本番では、レギュレーション違反で減点される橋があったり、橋を軽くしすぎて、50kgを耐えきれなかつたりといったことがありました。上位入賞の常連校もなかなか点数を伸ばせずデザイン点などで稼ぐ形になっていました。

Special Interview

～活躍する仲間～

一方、僕たちの橋「米」は50kgに耐えはしたが、デザインが評価されず18位という結果になりました。

今回の構造デザインの優勝校は徳山高専でアーチとラーメン構造を掛け合わせたような橋でした。分散した力を集約してアーチの得意な集中荷重に変換する、橋の上に砲丸を転がすといった発想は先生方も「思いつかなかつた」とおっしゃっていて、トップを狙うには先生も思いつかないような発想にたどり着かないといけないと思いました。今回の経験を活かし次回はデザイン、構造の面において意見交換を意欲的にしていき、より高みを目指していきたいと思います。

福井県及びその周辺の地殻活動の研究

地球物理学研究会4C 福田 奈月

私たち地球物理学研究会は、この奨励研究で地震活動や地盤特性について観測と研究を行い、特に福井県での地震活動と地球電磁気現象との関連性について統計的に調べています。本年度も昨年度に引き続いて、研究の一環として地震発生時の減災を目的とする地震の情報を流す防災ラジオの作製にも取り組みました。

観測活動では、観測装置のメンテナンスとデータのダウンロードを池田町の今立郡池田町観測室で行いました。更に、西山公園内に地震計のデータを定期的に収集し、物理教室で解析用フォーマットに変換しました。また、一昨年度に新しく河合小学校に設置した地震計の観測も行っています。

本年度でも、SSH参加校である藤島高校などと、私たちが観測したデータを共有し、共同研究を行いました。

そして、今年は福井地震が起きてから70周年になります。しかし、若い世代の人々の中には、福井で大地震があった事すら知らない人もいます。地球物理学研究会では、そんな人にもっと地震について知ってもらうため、新たな活動を始めました。それは、様々な地震に関する歴史的文献の写真を撮りPDF化するというものです。これにより、いつでも簡単に文献を閲覧することが出来るようになります。

ます。また文献の中には、古すぎて触るだけでボロボロになりそうなものもあります。そのような文献に直接触らなくて済むようになるので、文献を守ることにもつながると思います。

私たちは、この新たな活動が今後の研究に有用なものになることを願っています。

高専ロボコンに出場して

3M 木谷 太一

私たちAチームは、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2017大江戸ロボット忍法帳」に出場するためのロボットを製作しました。今回の競技は「風船割り」です。赤・青2チームの対戦形式で各チーム2台のロボットが戦い、相手チームの本陣、または相手ロボット2台のすべての風船を割ると勝利となります。また、ロボットは共通の「刀」と、チーム独自の「ひみつ道具」を用いて風船を割ります。

今回のAチームは「一貫弓(イッカク)」というチーム名で参加しました。製作したロボットは3台で、1台は攻撃型ロボットの「一」、残りの2台は万能型ロボットの「貫」と「弓」です。

攻撃型ロボットの「一」は、相手ロボットに押し負けないブレーキ機構と、粘着テープにより風船を確実に割る大きなひみつ道具により、高い攻撃力を実現しました。万能型ロボットの「貫」と「弓」は同一のロボットです。上下左右に渡って攻撃でき、なおかつ対角線上に配置された2本の腕により、あらゆる方向からの攻撃に対処できました。また、足回りのモーターはRS-540SHを採用したことでの速い移動を実現しました。

結果は2回戦で終わりましたが、日頃から応援していた皆様に感謝いたします。

また、教育後援会のご支援に御礼申し上げます。来年こそは全国大会へ出場できるように頑張りますので、今後とも応援よろしくお願ひいたします。

Special Interview

～活躍する仲間～

高専ロボコンに出場して

4M 笹木 航大

私たち平成29年度ロボット部Bチームは、「第30回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2017 大江戸ロボット忍法帳」に出場するためのロボットの製作をしました。今回のルールは「風船割り」でした。フィールドにはパイプを交差させることで作られた、それぞれのチームの「本陣」と呼ばれるものが設置しており、その本陣とロボットに付けられた風船をお互いに割り合うという競技でした。

今回私達は風船を割る方法の違う三種類のロボットを製作しました。多数の吹き矢を発射することで主に相手の本陣の風船を狙う「福砲」、槍で突くようにして相手ロボットの風船を主に狙う「福槍」、剣を振り下ろすようにして同じく相手ロボットの風船を主に狙う「福刀」の三台です。この三台がまさに一体となって大会を戦うことから、四字熟語の三位一体(さんみいつたい)と福井(ふくい)をかけて、三台合わせて福位一体(ふくいいつたい)という名前を付けました。すべてのロボットの通信方法は、Bluetoothもしくは2.4GHz帯を使用しコントローラーとロボットを接続しました。

結果は一回戦負けということになってしまい、とても悔しかったですが、アイデア賞と特別賞をいただくことができました。次のロボコンが私にとって最後になるので、気合を入れて頑張っていきたいです。多大なご支援本当にありがとうございました。

高専PRコンテストに参加して

5B 山本 悠衣

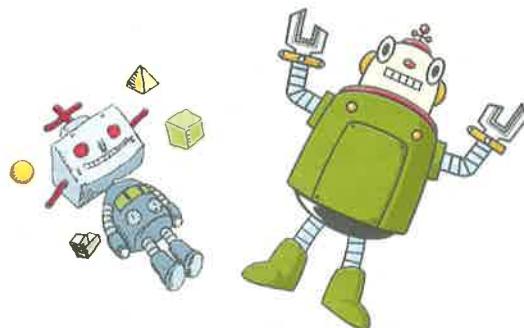
私は、奨励金でwacom intuos Pro ワイヤレスペンタブレットを購入しました。そのペンタブを用いて、女子高生向けの高専機構のパンフレットコンペに応募しました。

国立高等専門学校とはどんなところか、何をしているのかを具体的に絵を用いてわかりやすいように作成しました。主に、授業の仕組みや学科、部活動紹介や研修旅行、

高専祭の説明などを行いました。見やすいように余白の加減を調節し、カラフルな絵を用いる中、文字は読みやすいように黒色に統一しました。ペンタブを使用することは初めてだったので慣れない作業でしたが、自分なりによくできたと思います。

コンペの結果は、予選敗退となりました。この結果は、私の努力不足だったことが考えられます。また、ペンタブの使用に慣れておらず、技術を駆使できなかったことも考えられます。これから提出するコンペにもペンタブを用いた作品を提出しようと考えているため、ペンタブを隅々まで使えるよう勉強しようと思います。また、ペンタブだけではなく、背景の選び方、色使いなどの勉強を行い、見やすく、読みやすく、伝わりやすいものを目指していこうと努力します。

次回のコンペでは予選通過を目指し、自分の持っている技術をすべて使い、よりよい作品を作りたいと思います。



～学校通信～

平成30年度 第1回 学生表彰受賞者一覧

校長賞

◆1年間学業成績優秀者(第3条第1項第2号正課①)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
電気電子工学科5年	松本 大輝	電気電子工学科5年	松田 尚大
電気電子工学科5年	津谷 龍一	電気電子工学科5年	椿 大弥
電気電子工学科5年	窪田 圭佑	電気電子工学科5年	三田村 海人
電子情報工学科5年	石本 優太	環境都市工学科5年	森 真七会
機械工学科4年	山本 翼	機械工学科4年	中川 知哉
機械工学科4年	真柄 尚弥	機械工学科4年	川崎 彰大
電子情報工学科4年	石井 汝樹	電子情報工学科4年	向井 玲椰
電子情報工学科4年	古賀 斗	物質工学科4年	前川 純輝
物質工学科4年	水島 美咲	環境都市工学科4年	市橋 有咲
環境都市工学科4年	内藤 祐大	電気電子工学科3年	達川 卓輝
電気電子工学科3年	江守 祐樹	電子情報工学科3年	野村 風雅
電子情報工学科3年	安達 一生	物質工学科3年	飛田 玲菜
物質工学科3年	石坂 嘉経	物質工学科3年	増永 創駿
物質工学科3年	荒井 絹希	環境都市工学科3年	達川 宙輝
環境都市工学科3年	井波 大地	環境都市工学科3年	吉田 来夢
環境都市工学科3年	朝倉 龍司	機械工学科2年	長谷川篤哉
電気電子工学科2年	菅原真美由	電子情報工学科2年	山野 宗馬
電子情報工学科2年	斎藤愛友佳	電子情報工学科2年	松田 佳大
電子情報工学科2年	芹澤 莉苑	電子情報工学科2年	宮田 知浩
電子情報工学科2年	清水 陸	物質工学科2年	東 一花

◆学習到達度試験優秀者(第3条第1項第2号正課③)

学科・学年	氏名	学科・学年	氏名
物質工学科4年	前川 純輝	電気電子工学科4年	山本 真嘉
環境都市工学科4年	内藤 祐大	環境都市工学科4年	岩崎 晟也
電子情報工学科4年	古賀 斗		

～学校通信～

部・同好会の紹介

部活動として体育部が21、文化部が6、同好会が18あり、幅広い分野で活発な活動が行われています。



体育部 陸上競技部

全国高専大会出場を目標とし、日々、自己記録を向上させるため、部員全員で練習しています。また、高校総体などの高体連が主催する大会にも積極的に参加し、上位大會出場を目指してがんばっています。

指導教員 東 章弘、山田 哲也、挽野 真一



体育部 テニス部

経験者から未経験者までが所属し、とても熱くなれる部活です。全国高専大会で優勝するために先輩、後輩関係なく指揮し合い、お互いを高められるチームを目指して日々練習に励んでいます。

指導教員 吉田 三郎、長谷川 智晴、松野 敏英



体育部 剣道部

部員一人一人が目標を持ち、日々、技術の向上に励んでいます。過去には全国高専大会にも出場しました。剣道に興味がある人は、武道場に来て一緒に稽古しましょう。

指導教員 中谷 審伸、丸山 春生、手嶋 泰伸、堀川 隼世、川畑 弥生



体育部 ハンドボール部

ハンドボール部は毎週火水金土曜日の4回練習を行っています。部員は毎年30名前後で高専に入学してハンドボールを始める学生がほとんどです。高専大会や県の高校の大会で活躍しています。

指導教員 川村 敏之、芳賀 正和、江本 光美、坪川 光夫



文化部 吹奏楽部

吹奏楽部とは名前のとおり、楽器を「吹いて、音楽を「奏」で、それを「樂」しむ部活です。私たちは毎日、心和館で練習しています。主な活動内容としては、高専祭や卒業式での演奏、春のバンドフェスタ、冬のアンサンブルコンテストへの出場などです。

指導教員 小越 咲子、荒川 正和、岡本 拓夫、森 貞、秋山 雄、白崎 恵子



文化部 囲碁・将棋部

囲碁・将棋部は、現在十五人前後で毎週火曜日と金曜日に囲碁や将棋の面白さを大切にしながら楽しく、賑やかに活動しています。県内の各大会や全国大会、高専大会で好成績を取れるよう目指して練習しています。

指導教員 原口 治、山田 哲也、伊勢 光

その他の部・同好会一覧

体育部門

- ・卓球
- ・男子バスケットボール
- ・女子バスケットボール
- ・ラグビー
- ・野球
- ・軟式野球
- ・男子バレーボール
- ・女子バレーボール
- ・パドミントン
- ・ソフトテニス
- ・柔道
- ・サッカー
- ・少林寺拳法
- ・空手
- ・ソフトボール
- ・水泳
- ・合気道

文化部門

- ・モダンミュージック
- ・ロボット
- ・エレクトロメーキング
- ・英語

同好会

- ・天文
- ・茶道
- ・IT研究会プロフォ
- ・日本現代視覚文化
- ・VIP
- ・サイエンスクラブ
- ・フットサル
- ・放送・メディア研究会
- ・ダンス
- ・音鍵研究会
- ・Structural Design研究会
- ・スポーツクライミング
- ・写真
- ・アマチュア無線研究会
- ・グラフ電卓研究会
- ・珈琲
- ・空間デザイン研究会
- ・小型模擬人工衛星

Special Interview**～学校通信～****本校に着任して****本校に着任して**

電気電子工学科 秋山 肇

**太平洋～瀬戸内海～
日本海 長き旅の果てに**

一般科目教室 川畠 弥生

北陸トンネルを抜けた瞬間、サンダーバードの車窓から飛び込んできた雪景色は小学3年生で初めて訪れた時の記憶そのものでした。雪の思い出から始まった福井での生活は、それまで福岡で過ごした「会社員生活」とは一味違った毎日となりアッと言う間に半年が経過してしまったように思えます。

振り返れば、科学者であった叔父に憧れて理学(物理)を志し、父の脛を齧り続けて色々な経験をさせて頂きました。電機メーカーに就職し、幸運にも一貫して電力半導体分野で研究開発から製造品質管理までエンジニアとして様々な職種を勤められたことは貴重な経験であったと感謝しています。

一方で、一見豊さを謳歌しているかに見える日本という国は色々な問題を抱えている現実も目の当たりにしてきました。特に若い世代が社会とどのような繋がりを持ち、その絆を深めていったらよいかという問題について年配である我々の世代ができることは少なくないと感じたのが転職の理由の一つです。

本校に着任し、電気をはじめとした工学の修得を目指す学生諸君に学問の素晴らしさを伝える機会が得られたことを感謝します。それと共に卒業後に彼らを迎える実社会で大小様々な不条理さを孕んだクレバースを恐れず悔らず飛び越えていける「戦略」という考え方を身に付けてもらう為に私にできることを模索したいと思っています。

みなさん、こんにちは。今年の4月から、社会科教員として赴任した川畠です。担当科目は、法学、政治経済、歴史(世界史)等です。

私は、昨年度まで同じ高専で徳島県にある「阿南高専」というところに勤めておりました。ここ福井県は日本海に面していますが、徳島県は太平洋と瀬戸内海に面しており、どちらも海に親しみのある土地です。しかし同じ海でも全く異なる表情を見せることに驚かされました。福井高専と阿南高専も同じ高専ですが、学校が変わるとこれほどに校風や学校行事等、様々な点に違いがあるのかと新鮮な、しかし楽しい日々を過ごしてきました。これも学生のみなさんをはじめ、多くの方々に親切にしていただいたおかげです。

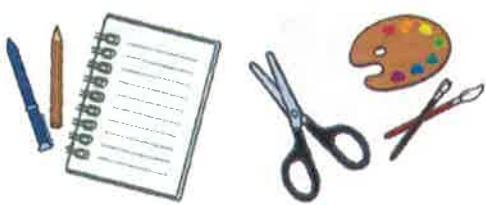
これから、みなさんとともに学び、少しずつ成長していくたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。

**皆様方と共に**

事務部長 澤田 利夫

4月1日付で本校に着任した事務部長の澤田です。

豊田高専に採用され、その後文化庁へ転任、さらに医科大学課長を皮切りに、以降4大学・1研究所で課長職、2高専(高知・岐阜)で部長職を務めてまいりました。毎回、いい意味で期待を裏切られてきました。それぞれの組織が固有の色を持ち、さらに磨きをかける努力をしていました。本校に着任して、いぶし銀のような内に秘めた魅力を感じました。教職員をはじめとする関係者の皆様方と共にその魅力をさらに磨き、本校を輝かせていきたいと思います。



Special Interview**～学校通信～****はじめての福井高専**

学生課教務係 吉田 理絵

**本校に着任して**

学生課教務係 山田 純生

4月1日付けで学生課教務係へ着任しました、吉田と申します。これまで福井大学で総務系や学生系の業務にあたっておりました。

表題のとおりはじめての福井高専、またははじめての教務系で、慣れないことも多いですが、先生方ははじめ周りの皆様のおかげで、何とか毎日頑張っております。このご恩を少しでもお返しできるよう精進して参りたいと思いますので、今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。

はじめまして。11月1日付けで学生課教務係に着任しました山田と申します。

前職では石川県加賀市の温泉旅館に勤めておりました。この度学校職員という全くの新世界に飛び込んでき、着任してから右往左往の日々を過ごしております。なにが分からないかも分からない私ですが、1日でも早く業務を覚え、福井高専の成長の一因となれるよう尽力いたしますので、ご指導のほどお手柔らかにお願いいたします。

**高専初体験です**

総務課専門職員 増永 武夫

**高専へ、毎日仕事に来ることになりました**

総務課 総務・地域連携係 藤井 真衣

7/1より、総務課専門職員(財務担当)に着任しました増永武夫と申します。30年近く大学で勤務していたのですが、初めての高専勤務で職員一人一人が処理していく業務の種類の多さに戸惑いながらの毎日です。片道1時間の通勤もようやく慣れてきましたが、冬本番に向か高速道路通勤が増えていくかと思うと、ETCの請求額に今からビクビクしています。最後になりますが、高専の、そして皆さまのお役にたてるよう(足を引っ張らないよう?!)がんばっていきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

12月1日付けで着任しました藤井です。

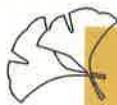
前職は営業です。実はこちらに仕事で何度かお電話したりお邪魔したりしていました。(その時失礼があつたらすみません)まさか職員として働かせていただく日が来るとは、とご縁のありがたさを感じています。

今は皆様にとても優しく温かくご指導いただきおり、何とか早く独り立ちし貢献したい気持ちです。よろしくお願ひいたします。



～中学校だより～

中学校だより



「通うのが楽しい学校づくり」を目指して



坂井市立 坂井中学校

本校卒業の福井工業高等専門学校5年生の皆さん
が、中学3年生の平成25年度の時、本校は、1、3年生5
クラス、2年生6クラス、特別支援学級1クラス、計17ク
ラス、全校生徒469人でした。そして、現在は、1、2年生
4クラス、3年生5クラス、特別支援学級2クラス、計15
クラス、全校生徒391人です。

本校の教育目標「創造的で活力ある社会の形成を
めざし、確かな学力と健康で心身共に逞しく、豊かな
感性と自立心に富んだ、郷土愛に満ちた人づくりに努
める」のもと、「きれいな学校」「明るい学校」「落ち着いた
学校」「地域から信頼される学校」を、また「よく考
え、心豊かで、何事にも全力で取り組む生徒」の育成を
目指しています。生徒は素直かつ明るく活発で、部活
動や生徒会活動、学校行事などに積極的に取り組んで
います。学習面では、ICT機器等を効果的に活用した
「分かる授業」を目指して、教職員が授業実践を積み

重ねており、また運動面では、生徒は保健体育の授業
や部活動で、地道な体力増進のための努力を継続して
おり、陸上部が今夏の全国大会に出場したり、秋の坂
井地区中学校駅伝競走大会では、男女ともにAチーム
の部、Bチームの部で優勝したりするなど、結果も表れ
ています。「親子で学ぶ道徳講座」と題して、昨年度か
ら外部講師を招いての命を大切にする教育や、希望学
(本県出身、ハンドボール日本代表にもなった石立真悠
子さんのご講演・実技披露)を取り入れたキャリア教育
の充実、また、「黙黙」と題する無言清掃や、「あいさつ」
の励行にも取り組んでいます。

このように、様々な活動を通して、「通うのが楽しい
学校づくり」を、分かる授業と生徒の主体的活動を通
じて、その実現を目指しています。



平成 30 年度学校行事写真



新入生オリエンテーション①



新入生オリエンテーション②



舞鶴高専交歓試合



パーソナルファイナンス講演会



クリーン大作戦



球技大会

編集後記

発行時期が当初の予定よりも遅れてしまい、申し訳ありません。新デザインに変更になってから、2回目の発行となった青武台だよりですが、今回は、体育祭や高専祭など、前回よりも内容が多くなっています。全ての学校行事を本誌で紹介することはできませんが、なるべく多くの学校行事を紹介することを目標としたいと思います。今後とも宜しくお願い致します。(相場)

青武台だより

独立行政法人国立高等専門学校機構 福井工業高等専門学校
発行日：平成 30 年 12 月 25 日

お問い合わせ

福井工業高等専門学校
〒916-8507 福井県鯖江市下司町
TEL:0778-62-1111